

都市計画マスタープラン策定委員会（第1回）会議要旨

日 時：令和3年6月28日（月）10：30～11：35

場 所：役場第2会議室

出席者：戸田町長（委嘱状交付・挨拶のみ）

竹田委員長、古俣副委員長、下夕村副委員長、中野委員、鴻野委員、千葉委員、
道見委員、牧野委員、倉地委員、北平委員、小林委員

事務局：富川課長、伊藤参事、温井主幹、熊谷主幹、奥田主任

1. 委員紹介・委嘱状交付

- 事務局より各委員を紹介した後、自己紹介。
- 委員紹介後、町長より外部委員（9名）に対して委嘱状を交付。

2. 町長挨拶

- 令和2年度国勢調査の速報値は16,255人、前回比△1,515人となった。また、高齢化率も5月末で46%、高齢化の進行も全道上位14番目の高さとなり、本町においても本格的な人口減少・超高齢社会に突入している。
- また、昨年度、第6次白老町総合計画を策定し、持続可能なまちづくりに取り組んでいるところである。
- これからのまちづくりには、人口減少・少子高齢化を見据えた、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりが必要であると感じている。
- ウポポイの開業により町内観光入込客数も増加している。コロナが終息すると更に伸びるものと予測しており、それらを契機とした関係人口の創出が大事である。
- 都市マスは20年にわたる長期的なまちづくりの展望を示すものであり、様々な角度から多様な意見をいただき、「白老町の未来図づくり」にお力添えをいただきたい。

3. 策定委員会の体制と役割について

- 事務局から説明（資料1） 質疑なし

4. 現行都市計画マスタープランの概要について

- 事務局から説明（資料2） 質疑なし

5. 次期都市計画マスタープラン策定方針について

- 事務局から説明（資料3） 質疑なし

6. 都市計画とマスタープラン（第1章）について

- 事務局から説明（資料4） 質疑なし

7. 意見交換

- 【小林委員】自分は住宅関係の仕事をしているが、例えば苫小牧だとアパートの供給が増えすぎて、5年10年と経つにつれて需要がなくなってくるという実態がある。建築や建物に関することについての状況は把握しているので特にそのような面で力になりたい。
- 【北平委員】子育てふれあいセンターの委託を受けて14年。子供は激減しているが今でも子育て世代の場所として賑わいがある。子育て世代の生の声を常に聴いているので、その声を代弁しながら、子育てにやさしいまちづくりに貢献したい。
- 【倉地委員】自分が子供のころ、小学校・中学校とも3クラス4クラスあったが、今では子供の数が激減して少子高齢化の進行を感じている。自分は高齢者介護の仕事をしていることから、社会福祉関係で力になりたい。
- 【牧野委員】町内会連合会の事務局長をしているが、同時に町民活動団体の支援も行っている。町内会の課題は、高齢化や担い手不足により町内会だけで解決できないことも増えてきている。人という資源をどう有効に活用していくかということが我々の考えにあるが、都市計画も同じようなことが言えると思う。また、計画を策定するにあたって、町民が理解できなければ意味がない。最低限、計画の主たるものが町民に理解できるような計画である必要がある。
- 【道見委員】青年会議所のまちづくり委員会で副議長を務めている。青年会議所ではSDGsをいち早く推進している。本業は建設業であることから、特に建設関係で寄与していければと思っている。
- 【千葉委員】観光協会として町から指定を受けて駅北インフォメーションセンターの運営をしているが、今はコロナ禍ということもあり団体客やインバウンドのお客はいない。コロナ終息後、たくさんの方々にはウポポイに来ていただき、その後、町内を周遊してもらえるような仕組みづくりが必要であると感じている。観光の視野に立った中で貢献していきたい。
- 【鴻野委員】商工会にて小規模企業に対する補助金支援を担当している。具体的な事業計画を持ってないまま事業を行っている企業もいる。企業への経営指導を行うためには、将来を見据えたまちづくりへの方針が必要である。その計画策定の一翼を担えるよう協力していきたい。
- 【中野委員】事務局の説明を聞いて、環境、自然、持続可能なまちづくりが重視されているのがわかる。その視点を重視して計画づくりに臨みたい。
- 【下夕村副委員長】各分野からの視点は大切である。10年、20年後、どこにどれくらいの人を住ませるのか、また、どう活動させるか、将来を見据えた土地利用計画を考えることは重要である。また、都市計画においては、一度決定した線引きを縮小したり、変更したりすることはとても難しいことであると理解している。

ただ、今後の人口減少社会を見据えた中、コンパクトなまちづくりを進めていかなければ、これから先、生き残れない。今後の審議の中で、私の立場から厳しい提言・助言をさせていただくこともあるがご理解いただきたい。

また、土地利用は利害関係が強く軋轢が生まれることが多いものだが、皆さんとともに多種多様な意見を出し合いながら、マスタープランの原案を策定していければと考えている。

【竹田委員長】今回は人口減少・少子高齢化が進んだ中での計画策定となる。また、津波の浸水被害など、大きな課題を抱えた中での策定となることから、皆様の意見をしっかり受け止め、議論を深めていけるよう、議事進行に努めていきたい。